

随想「出会いは一瞬、出会えば一生」

日本銀行 仙台支店長 岡山和裕

皆さん信じられないかもしれないが、私は子供の頃はとても引っ込み思案だった。幼稚園の時には滑り台を滑れなかったらしいし、同じ組のお友達にいじめられても言い返せなかったらしい。小学校、中学校も、どちらかと言えば、大人しい子供だった。

ところがである。高校で親元を離れて、同級生と寮生活をするようになった。24 時間寝食を共にするのだ。私が通った高校は田舎校だったが、同級生のキャラクターは実にバラエティに富んでいた。

例えば、①大学受験に向けて起きている時間はほぼ勉強している同級生、②授業後の運動部で思いっきり運動してあまり勉強していないけれども成績の良い同級生、③将棋・囲碁が滅法強かった同級生、④日本の流行歌の年代を諳んじることができる同級生、⑤当時流行っていた洋楽の殆どを知っている同級生、⑥全国の駅名の殆どを記憶している同級生、⑦芥川賞や直木賞の受賞作品の殆どを読んでいる同級生などなど。

そして、一番衝撃を受けたのが、トークが面白い同級生。その同級生は、日常生活や世の中の出来事など、身近なテーマを話しているだけなのだが、それを見る視点や、トークの中に散りばめられた伏線を回収していくストーリー展開力が秀逸なのだ。そして、最後には大いに笑ったり、大いに感動したり、大いに考えさせられたりするのだ。

この同級生に会ってから、その同級生がどのような話をするのか、色々と分析してみることにした。そうすると、常日頃から、周囲のことに対して、強い関心を持って見ているほか、その背景や要因を推測したり、調べている。また、その出来事が今後どのように推移するのかについても予測しようとしているし、全然違う場所で発生している出来事を関連付けて考えているのだ。だから、話が面白いのだ。

この同級生に大いに感化されて、大学生になったが、そこでもとても魅力的な同級生に巡り会うことができた。そうした出会いは、社会人になっても、色々と経験させてもらっている。

社会人になって出会った、ある経営者が仰った言葉が「出会いは一瞬、出会えば一生」。この言葉の意味合いを噛みしめる毎日である。